

2024年北方森林学会春季行事報告

～北海道林業の明日を担う「クリーンラーチ」を深く知る ー種子生産から造林までー

2024年の春季行事は、7月30日（火）に開催し、「北海道林業の明日を担う『クリーンラーチ』を深く知る ー種子生産から造林までー」をテーマに、クリーンラーチの苗木生産を行っている有限会社石田農園、クリーンラーチ採種園を造成・管理している南空知森林組合および胆振総合振興局森林室管内のクリーンラーチの密度試験地の見学をさせていただきました。参加者は渋谷正人会長（北海道大学農学研究院）をはじめ総勢36名でした（北大12、東京大学演習林4、北海道森林管理局2、北海道庁2、森林総研北海道支所5、林木育種センター北海道育種場4、道総研5、一般2）。行程は、マイクロバス組は12時に札幌駅北口を出発し、13時に有限会社石田農園で自動車組と合流して苗木の生産現場を見学した後、14時過ぎに南空知森林組合のクリーンラーチ採種園を見学し、休憩の後、15時半に道有林のクリーンラーチの密度試験地を見学しました。

有限会社石田農園では、クリーンラーチの概要について説明を受けた後、さし木苗および実生苗の生産現場を見学し、苗木生産担当の方から説明を受けました。さし木苗の生産では、さし穂を採取する台木は2年生が最も適していること、今まで密閉した環境で行っていたさし木を袖を解放した温室で行うことにより得苗率が大幅に向上したことなど興味深い話を伺うことができました。南空知森林組合のクリーンラーチ採種園では、森林組合の方から採種園の概要を伺った後、効率よくクリーンラーチの種子を生産するための独特のクローン構成・配置について説明を受けました。幸運にも今年着生した貴重なグイマツの球果を見ることができました。最後のクリーンラーチの密度試験地では、植栽密度が3段階（625本/ha、1000本/ha、1333本/ha）のさし木および実生苗由来の試験地の20年生の状態を見学することができました。いずれの訪問先でも、ご担当の方から丁寧な説明を受け、クリーンラーチについて考える良い機会となりました。

最後に、今回の見学を受け入れ、御説明いただきました有限会社石田農園の石田浩司代表取締役、南空知森林組合の早坂美千代参事、そしてクリーンラーチ全般にわたって詳細な解説をいただきました道総研林業試験場の来田副場長に厚く御礼申し上げます。



写真 石田農園での実生苗生産（左）、クリーンラーチ採種園での概要説明（右）